

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400134		
法人名	医療法人 鴻仁会		
事業所名	認知症対応型共同対応型生活介護 グループホーム 光風園(Bユニット)		
所在地	北海道函館市宮前町11番8号		
自己評価作成日	平成24年10月9日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の気持ちに寄り添いながら共に支え合い、張り合いのある生活を大切にし、地域の中でゆっくり暮らしていくことを大切に考えています。また研修には積極的に参加し、職員個々のスキルアップを念頭に日々取り組んでいます。(※ホール内に平行棒・滑車を設置しており、機能訓練に力を入れています。)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action.kouhyou_detail.2011.022.kani=true&JigvosvoCd=0191400134-0](http://index.php?action.kouhyou_detail.2011.022.kani=true&JigvosvoCd=0191400134-0)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年11月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共用し日々連絡・報告・相談して、利用者様に統一したケアができる様に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、行事への参加やボランティア活動など、地域へ貢献出来るよう積極的に取り組んでいる。また利用者との散歩時等挨拶し、遊びに来て頂けるよう声掛けしている。町会総会に参加し、情報の共有を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事・ボランティア活動への積極的な参加や、町内会・ご家族の方々に運営推進会議へ出席して頂けるよう呼び掛け、認知症を含め事業所内の理解を広げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定通り2カ月に1回実施。利用者様・町内会・包括・ご家族様・又様々な職種の方々に参加して頂き、意見交換・助言を頂き、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と日頃より連絡を密に取り、協力関係を築いている。また助言を頂き、サービス向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的にカンファレンスを行い、身近に起こりうる問題を中心に話し合いをし、身体拘束防止に努めている。また、会議内容を後日ご家族様に伝えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会等に参加し、勉強をする機会を設けている。また身体拘束と同様、常にカンファレンスで話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、現在当施設では対象の利用者がおらず、資料等、おおまかには理解している。今後勉強の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、丁寧な説明を心掛け、利用者や御家族の不安や疑問を引き出すようしている。又、それに対し再度理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対する窓口は設けており、面会時や運営推進会議を通して利用者様・ご家族様の意見・不満・苦情を重要視し、常に改善に向けた取り組みを行っている。又、事務所窓口に目安箱を設置・投函して頂き、運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例のユニット会議内にて、職員が自由に意見や提案を表せる機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会・入居者担当を職員個々へ振り当て、責任をもって働けるよう取り組んでいる。また上司・職員と話し合いの場を設け、職場環境を改善するよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人内全体での勉強会を行っている。外部研修に関しては、各職員公休を利用し積極的に参加している。また働きながらお互いの意見を交換したり指導したりする事により、専門性・人間性を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での行事参加・内部研修・外部研修等を通じ、同業者との交流・情報交換を行うことにより、意見を参考としサービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や入居時に、本人やご家族様と話し合いをする事により、要望等の理解・把握に努め、安心して過ごしてもらえるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や入居時に、ご家族様から話しを聞く事により、理解・把握に努め、信頼関係作りを行なっている。また、ご家族様だからこそ持つ感情や起伏等を受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等により状況把握に努め、本人が必要としている事、ご家族様が望む支援を相談時に見極め、安心してサービスが提供出来るよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室に閉じこもらないよう職員は常に『出来る事・ご本人がしたい事』を支援し、対話・傾聴に気をつけ信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所で家族関係が終わる事はない。今まで身近で関わってきたご家族様と、これから関わっていくホームが共に手を取り、今までとこれから先を見据えしっかり支えていきたい。また、ご家族様とは、面会時や電話連絡にて情報の交換をしている。今後家族会発足に取り組み、家族同志及び職員との交流を深めていければと思っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一定の入居者様への面会・外出等は多々見られるが、全体として面会頻度は乏しい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態に合わせて、座る席等を考慮し、関係作りを行っている。また職員が利用者様との交流の中でお互いの関係について把握し、孤立する事が無いように取り組んでいる。共同での行事やレク等にお誘いし、日頃から関係が円滑になるように支援し、どうしても気の合わない方同士の時は、職員が間に入り仲を取り持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等によりサービスが終了しても、お見舞い・電話連絡・相談・他サービスを紹介したりと、定期的に連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族・親戚・友人等から情報収集し検討を重ね、会話の中や表情等により暮らし方の希望を汲み取り把握している。また居室にはなるべく本人が昔使っていたものを置くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や入居前施設の関係者から情報を収集し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や入居前の情報、本人との関わりの中で、情報の把握に努めている。また時間が許す限り担当職員と一緒に一人ひとりの状況を耳で聞き目で見て確認し、介護記録をこまめに付け一日の過ごし方の分析を行っている。又、リハビリやラジオ体操を毎日行い有する力の現状維持に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は、担当職員と面会等により訪問されたご家族様と本人を交え、話し合いの時間を作っている。期間に応じたプラン変更の他に、カンファレンスやサービス担当者会議を開催し情報収集に努め、必要との判断があれば期間に関係なく新たなプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな出来事も記録し、毎日の申し送り・連絡ノート・毎月のユニット会議にて情報交換・情報の共有をし、ケアや見直しに活かしている。またご家族様へはその都度電話連絡・面会時に近況報告し、生活の様子を伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて随時相談・対応支援している。また共同生活というホームの機能を最大限に生かし、いつでも職員が側にいるため、昼夜問わずに利用者様の要望を出来るだけ支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等の際、ボランティア団体の方をお招きし、芸を披露して頂いている。特に防災に関しては昨今他施設での火災が取り上げられているため消防署との連携を強化している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・ご家族様と話し合いにて、かかりつけ医療機関、及び当法人医療機関への主治医変更否かを決めている。またその他医療機関については、受診希望があれば医療を受けられるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として毎週看護師が訪問した際、利用者様の健康管理・受診の必要性等を相談したり、服薬・判断に苦慮した際はすぐに連絡をし助言を受け、支援に活用している。また24時間365日連絡体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関との連携を密にし、早期退院出来るよう話し合いをしている。また入院時必要な施設情報(既往歴・生活歴・薬剤情報等)が記載されたフェースシートを提出し、情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方は事前に本人・ご家族の意向を聞き対応している。また日々生活の状況や段階に応じて、ご家族様・主治医共々医療関係者と話し合いを進めている。今年初めて施設内にて、ご家族様・医療関係者協力の下ターミナルケアを実施したが、目の当たりにした現実はとても辛く、悲しい思いをした。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故対応マニュアルがあり、応急手当に関しても、初期対応は身につけている。今後は更に実践力を身につけていきたい。また急変時は医療連携看護師に連絡・対応できる体制になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(春・秋)訓練を実施し、消防からアドバイスを頂き、常に対応出来るような体制作りに取り組んでいる。また運営推進会議を通じ、近隣の方からの協力を得る事が出来るよう働きかけています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の大先輩として尊敬した言葉遣いや対応をする様に心掛けている。また自尊心が傷つけないよう働きかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや希望を自由に表出出来るように一対一のコミュニケーションの時間を多く取っている。また居室に本人やご家族様の希望する、馴染みのある家具や生活用品を持ち込んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状況に応じて、入居者様のペースに合わせた生活が出来るように心掛けている。また屋上に物干しスペース・植木が置いており、見学・物干し・水差し等、気軽に外気に触れる空間を作っている。近隣に当グループ内共同での畑も整備されており、季節に応じ収穫等へ足を運んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族好みの服装・髪型を尊重し、必要に応じ訪問理美容利用、または馴染みの美容室の利用を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当法人深瀬院管理栄養士管理の下、献立が作成されており、個々のニーズに合わせて、普通食・刻み・ソフト食に分け誤嚥しない様調理方法を工夫している。また誕生日・行事等は事前に管理栄養士と相談し準備している。また日々の生活の中で、利用者様と一緒に下拵え・食事・片付けをしている。月に一度法人内給食会議を行い意見交換をし、献立に反映させている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人管理栄養士作成の献立表を基に調理している。また個々の身体的状況や既往症状を基に、食事・水分同様、見合った量・味付けを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後、口腔ケアを支援しています。義歯についても洗浄・就寝時ポリデント使用にて除菌対応支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考にトイレの声掛けや誘導を行い、失禁やおムツの使用率が少しでも軽減できるように努めている。また排泄の失敗に対しても自尊心に配慮し速やかな対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を取り入れた食事内容の工夫、水分量の確保に努めている。また毎日定例のラジオ体操・個々の機能訓練を行い身体を動かす習慣を取り入れている。排便困難な場合は医療と連携し薬剤対応をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後時間に関係なくゆっくり入って頂いている。介助の必要な方は職員が二名介助にて行っている。また以前利用していた当法人内鴻仁荘への温泉レクは、利用者数が少なく中止となった。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のお昼寝、状態に応じ入眠前の足浴と安心して眠れるように、照明やテレビの音の配慮をしている。またシーツ・枕カバー・衣類を随時交換し、いつでも清潔な物を身にまとうよう支援している。また現在試験的にアロマセラピーを取り入れ、安眠に繋げられるか調査している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬に注意し朝・昼・夕と個別に保管・職員2名で確認し、服用時も飲み込み確認するまでその場を離れない。また薬情報を個人ファイルに綴っており、いつでも閲覧可能。変更時は随時申し送りし、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・普段の会話より本人の希望を把握し得意なことが活かせるよう配慮している。(例:町会ボランティア活動参加、畑作業、炊事作業、レク【将棋、トランプ、カルタ、折り紙、行事工作、裁縫】など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中から、利用者様の希望を把握し、事前に家族と連絡を取り合いながら外出（近隣散歩・畑の様子・市内近郊ドライブ・買い物など）しています。また地域の行事にも参加し、楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理出来る利用者様は少なく殆んどがホーム管理であり、職員・家族買い物代行支援している。一部利用者様のみ希望時職員付き添いにて買い物等外出される事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけたりかかって来た時は、伝えて話をして頂けるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や音量、室温等には配慮をしている。又、季節感を採り入れるため、行事に合わせた飾りや写真を貼ったり、TV・BGMを活用し居心地の良い空間作りに取り組んでいる。今後利用者様個々・面会者等の談話スペースも確保していきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状態に合わせて席を配慮し、安心出来るような居場所作りに取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前に居室には以前から使用していた馴染みのある家具を持参して欲しい事を伝え、出来るだけ以前の暮らしのような雰囲気を保てるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっているため、車イスを使用している方、歩行が不安定な方も手すりを使用して生活をしている。また出来るだけ本人にあった自立支援が出来るよう、本人の話を傾聴し取り組んでいる。		